

### 高宗の即位から始めよう

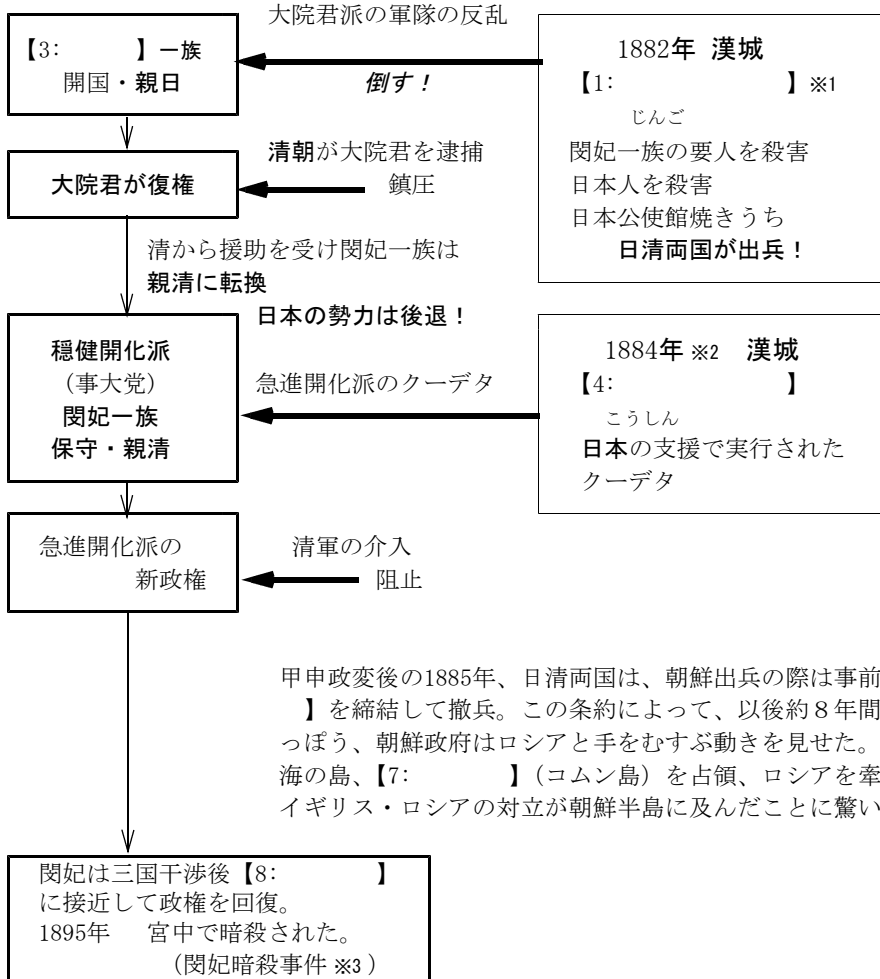
- 1) 江華島事件(1875)の12年前の1863年、朝鮮王朝の実質上最後(厳密には最後から2人目)の君主となる高宗 位1863-1907 が即位した。しかし、政治の実権は父の**大院君**が握っていた。この政権は朱子学を重視し、強硬な攘夷政策をとり、キリスト教徒を弾圧し、**崔濟愚**が創始した東学という宗教も弾圧し、日本の開国要求にも応じなかった。そうした独裁政治は特権層の反発をうみ、1873年、大院君は失脚した。
- 2) 替わって高宗の妃の**閔妃**が政治の実権を握ったが、旧態依然の政治はほぼ同様だった。そこへ、No.156に見るように**江華島事件**が起き、日朝修好条規で開国せざるをえなくなった。近代化をめざす**開化派**が台頭しつつあったが、保守派もまた無視し得ない力を保っていた。大院君は1882年に政権を取り戻しにかかる。後掲。

### 日清戦争直前の朝鮮 江華島事件以降の動きは次のとおり。

首都漢城で起きた2つの衝突事件 壬午軍乱 (1882) と 甲申政変 (1884)

【こちらが政権掌握側】

【政変の要点】



攘夷・親清の立場に立つ【2: 大院君派】(高宗の父、1873年に失脚)が軍隊を動かして閔妃一族(開国・親日)を倒し、一時的に復権した。清朝は大院君を逮捕して事態を收拾したため失敗。失脚。

※1 財政難による給料未払いのため不満が高まっていたこともある。

※2 同年に清仏戦争が勃発し駐留清軍の半数が帰還していた。

開化・親日の立場に立つ【5: 急進開化派】10M、朴泳孝ら急進開化派(独立党)が、強まる清朝の干渉を排除するため日本の支援を受けてクーデタをおこし、親清に転換していた閔妃一族ら親健開化派(事大党)を倒し、一時新政権を建てたが清軍の介入で失敗。【5】は日本に亡命(後年上海で暗殺)。

※3 背後に長年対立していた大院君のほか、親露派を排除したかった日本の関与があった。

事件後も駐留ロシア軍は増強されており、日本はこの時点では朝鮮で優位に立てなかった。

### 日清戦争

朝鮮における大規模な農民反乱(甲午農民戦争)が日清戦争の直接の契機であり、日清戦争は朝鮮で始まったと言える。

- 1) 朝鮮では、開国後、増税に加え、米や大豆などの穀物が日本に売られたため、農民の生活が苦しくなり、1883年から各地で農民蜂起が起きていた。1894年、【9: 甲午農民戦争】が起きた。指導者は**崔濟愚**の影響を受けた【10: チョンボンジュン 1854-95。スローガンは「逐洋斥倭」。始まった場所は朝鮮半島西南部の**全羅道** ぜんらどう、郡守の権限濫用が発端。要求は、外国商人と結託した不正役人の罷免や税の軽減だった。農民蜂起は、朝鮮全体に広まった。この事件は、かつて「【11: 東学】」と呼ばれた。それは参加農民の大半が宗教結社「東学」の信徒だったからである。ただし、実態は**農民蜂起**であり、決して宗教戦争ではない。東学とは1860年頃**崔濟愚**(チェジュウ/さいせいぐ1824-64)の創始した宗教。西学(キリスト教)に対する東学という意味で民間信仰に儒・仏・道をまじえたもの。崔濟愚は既に1864年、「邪道亂正」の罪で**処刑**されている。全琫準は1895年に処刑された。



2) 《開戦に至った経緯……やや詳しい説明》 1894年、朝鮮政府は農民軍の上京を阻止するために、清の出兵を要請、清は出兵した。日本も【12: 】を根拠※4として、加えて公使館・居留民保護も口実に出兵した。この日清の（とくに日本の）武力介入を阻止するため朝鮮政府は農民の要求をほとんど受け入れて全州和約を農民と締結して事態の收拾を急ぎ、日清両国に撤兵を求めた。実際に内乱が収束したので、日清両国とも内乱発生時の出兵を規定した天津条約上の出兵根拠を失った。しかし両軍とも撤兵しない。

※4 天津条約に基づき、清は出兵にあたり日本に事前通告を行い、日本も清に事前通告を行った。

3) 日清戦争の戦闘は朝鮮で始まった！



日本は「清の属国である朝鮮の独立のために」なんととしても朝鮮政府を支配下に置きたかった。日清戦争は1894年7月25日、日本海軍の奇襲攻撃による【13: 】から始まった。8月1日に日本が宣戦を布告。

陸上戦でも1894年9月には日本軍が清国の拠点である平壤を陥落させ、【14: 】(アムノッカン/おうりょくこう)を越えて中国に侵攻した。

一方漢城では日本軍は王宮を占拠し親日政権を発足させていた。全州和約の成立でいったん解散していた農民軍は1894年10月、最大規模で再度蜂起※5した(第二次蜂起)が、近代兵器を装備した日本軍の前に敗北した。農民軍の壊滅は1895年1月。1895年3月、指導者全瑋準は日本軍に逮捕され、朝鮮政府によって処刑された。

これよりやや前の94年9月の【15: 】で、日本は【16: 】が育成してきた【17: 】に壊滅的打撃を与え、11月には【18: 】を占領して遼東半島を制圧、翌年2月には【19: 】を占領した。

※5 農民の第二次蜂起は大元君などが扇動したという説もある。いずれにしても日清戦争で日本軍は親日政権打倒をめざす朝鮮の農民軍と戦わなければならないのであった。清国軍は編成・装備が不統一で士気が低く、東

洋一といわれた旅順要塞はわずか1日で陥落した。この「旅順陥落の翌日から4日間、非戦闘員・婦女・幼児などを日本軍が虐殺した」と外国人ジャーナリストによって世界に報じられ、国際問題となった(旅順虐殺事件)。当時の清国軍には敵兵の首や手足を切断して持ち帰り、褒美に銀などをもらう慣習があり、切り刻まれた遺体を見た日本軍が激昂して大虐殺に及んだといわれているが、日本軍の組織的な対応であったことが明らかになっている。

3) 1895年4月、日本全権伊藤博文・陸奥宗光と清国全権【20: 】との間に講和が成立した。これが【21: 】である。日本は約2億円の戦費をつかったが、これは当時の国家予算の2倍以上だった。【21】によって日本が支配することとなった【22: 】では、島民による激しい抵抗で戦争状態はその後約20年間も続き、戦死者は日清戦争を上回った。

4) 下関条約(1895年)の内容 右図にマークせよ

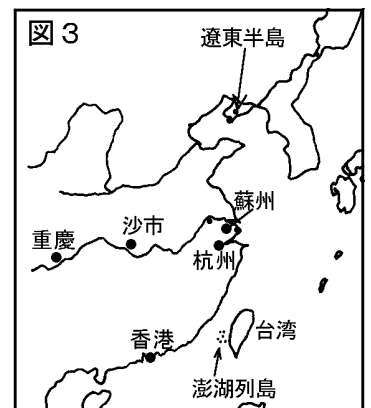
- ①朝鮮の完全独立(=清の朝鮮に対する【23: 】放棄)  
→「朝鮮の独立」という名目とは裏腹に朝鮮への圧力を強めロシアとの対立を深めた。
- ②【24: 】、【25: 】、澎湖列島の日本への割譲。 図3で位置確認！  
→【24】は三国干渉の結果、清朝に返還した。  
→【25】に総督府をおき初めての植民地経営に乗り出した。
- ③【26: 】2億両(テール)の支払い =日本の通貨で約3億1千万円
- ④4港を開港する。 蘇州、杭州、沙市、重慶 図3で位置確認！
- ⑤開港場での製造業経営権の承認 08W
- ⑥最恵国条項の供与

5) 下関条約だけではなかった！ 1896年の【27: 】で次の項目を決める。

- ①協定関税制 ……【28: 】の放棄
- ②【29: 】の承認  
下関条約に日清通商航海条約をあわせると、典型的な不平等条約であることが分かる。

6) 日清戦争の影響

- ①日本の国際的地位は向上し、不平等条約改正の第一歩となった。
- ②清朝は弱体ぶりを世界に示すこととなり、半植民地化がいつそう進んだ。



2013 早稲田大学 2/22 一般 社会科 抜粋 改変

正解 b, e

問9 朝鮮王朝末期の朝鮮に関し、朝鮮についての次の記述のうち、適切でないものを2つ選べ。

- a. 1876年に日本との間に結ばれた日朝修好条規は、日本の領事裁判権を認めるなどの不平等条約だった。
- b. 大院君は開国政策を通じて国政の改革を図ったが、閔妃一派により失脚させられた。
- c. 日本の援助のもとに国内改革を進めようとする金玉均ら開化派は、1884年にクーデタを断行した。
- d. 東学を信奉する農民は、1894年に全瑋準を指導者として、外国勢力の排除を目指す反乱をおこした。
- e. 漢城で1882年に、閔氏打倒と反清を掲げて軍人が蜂起した壬午軍乱がおこった。